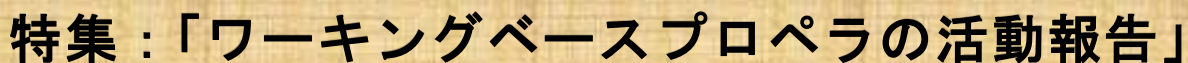


2025年11月

三富福祉会通信

<https://www.mitomi-fukushikai.com>



2025

実りの秋にプロペラの農場からたくさんの収穫がありました。ショップも新商品が出揃っています。今年で設立13年目となるワーキングベースプロペラから活動風景が届きました。最近の活動、これからの想いについて報告させていただきます。

特集：ワーキングベースプロペラの活動報告



管理者 中込 学

ワーキングベースプロペラは生活介護事業を運営しており、主に農作業（農福連携作業、耕作放棄地管理・運営）と、オリジナル商品等を通して、利用者さんがあらゆる角度から社会と接点を持つことを目標に支援しております。作業や活動種目は個人のニーズや強みに焦点を当てることを重要視しています。

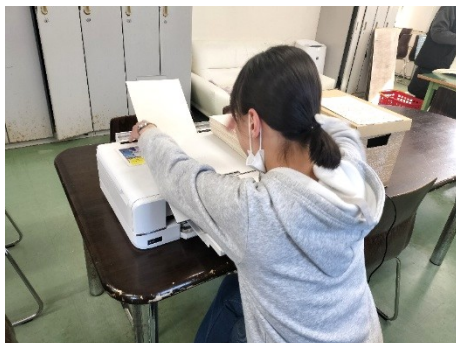
農福連携作業は地域の圃場（葡萄・桃）の人手不足解消の一役を担えるよう、圃場施主様と共に進めています。作業内容は多岐にわたりますが契約農家施主様が、手が届かない細かな部分や人手が必要な部分の作業を請け負っています。また耕作放棄地管理に関しては山梨市の葡萄畑（シャインマスカット、巨峰）や甲州市の梅畑を借りて栽培をしています。



オリジナル製品は、プロペラショップ奥に作業場があり、和紙を使用した紙製品を中心に、利用者さんが描いたアート作品なども商品化しております。商品は峡東地域のお店や公園の売店などにも置かせていただいています。地域のどこかで商品が多くの方の目に留まり、プロペラのことをたくさんの方に知っていただきたいと思いながら、一同で日々作業に励んでいます。この秋は地域のイベントやお祭りにも出店し、利用者さんと一緒に販売活動も行ってきました。販売活動も大切な社会参加活動の1つです。

ショップに入店すると、奥の作業場から「トントントン」と和紙の材料となる楮（こうぞ）を叩く音が聞こえたり、メモ用紙を並べたり数えたりする中で楽し気にお話をされる利用者さんの声が聞こえてきます。

来年のカレンダーは例年の和紙ものから、手ぬぐい製品に変更しました。ぜひ一度プロペラショップにお越しいただき、実際の製品たちを手にしていただけたらと思います。



作業だけでなく、散歩やカラオケ、体育館でのダンスや軽スポーツ活動なども行っています。作業の合間にリフレッシュや発散活動などを行いながら、今日も利用者さん同士で互いを労いつつ、「働く」ことを支えています。



ワーキングベースプロペラは生活介護の事業運営を開始して 13 年となります。振り返ると利用者さんと職員とで協働しながらコツコツと一歩ずつ進んできた 13 年間であります。現在ではショップの存在、商品や農作物も地域の方々に認知されつつあり、利用者さんと社会との接点も大きく広がってきたと感じています。プロペラのショップ店内だけでなく、地域のお祭りやイベントに参加する中でお客様に直接会う機会も増え、接客を通してお客様と関わり、声をかけていただくことが嬉しいです。

今後も利用者さん中心に、そして利用者さんとともに前進してまいります。継続は力なりと信じています。これからも利用者さんの明るい笑顔、真剣な眼差しを多くの方に知っていただけたらと思っています。





地域活動支援センター

オアシスやまなし結



地域活動支援センター「オアシスやまなし結」も、今年の11月で6年目に突入しました。事業所の基本方針である「地域で暮らす障害者の日中活動の場として『自分らしく、生き生きと安心して』暮らしていただけるサービスの提供と、常に利用者の意思と人格を尊重し、心のこもった事業所運営に努める」を念頭に、障害を持っている方々にとっての憩いの場（やすらぐ場）、家庭や仕事場以外にも自分の居場所となるような事業所を目指しています。いつでも気軽に顔を出せる場所であり、他愛もない話ができる場所でもあり、誰も気にすることなくゆっくり休息できる場所です。また地域とのつながりも大事にし、交流の場を設け、コミュニケーションを図れるようサポートも行っています。

今年度は、街の駅やまなしで行われた「山梨市チーム共生」主催の秋祭りにも参加しました。結では輪投げゲームのできるブースを出し、利用者さんが交代で店番をしました。事前に利用者さん手作りの景品を3種類用意して、ゲーム参加者には点数別にプレゼントしました。景品も大好評でした。

また障害者文化展の団体の部にも出展をしました。利用者皆さんに協力していただき、3か月掛けて「四季を刻む木」を完成させました。結の利用者さん皆の熱意と努力が実り、地域展から選抜され、総合展（県立図書館）への展示作品となりました。

私たちと一緒に活動を通してご自身の「居場所づくり」をしてみませんか？ご興味のある方は見学＆体験ができますのでご連絡ください。



秋祭りは準備から出店まで、皆で協力して行いました。多くの方との交流も楽しむことができました！！



四季を刻む木



オアシスやまなし結

所在地：山梨市小原西644-6

開所日：月～金曜日（9時から15時）

問い合わせ先：0553-34-5032

三富福祉会理事長

山西 孝

理事長より



障害者福祉協会理事長となって

早くも師走となってしまいました。今年度もあと4か月足らずを残すのみとなりました。歳を重ねるほど時間の進み方が早くなるのを実感しています。

今年度から山梨県障害者福祉協会の理事長となりました。前理事長の竹内正直さんからの要請でした。90歳を超えた竹内さんから「頼むよ」と言われたら断ることなんてできませんでした。山梨県知的障害者支援協会の会長は昨年春に全国大会開催を機に辞めることが出来ていました。

山梨県障害者福祉協会は県内障害者関係12団体から構成する協会です。身体、精神、知的、視覚、聴覚、難病等障害のあらゆる障害関係を網羅しています。他県では見られない組織です。山梨県から障害者社会参加推進センター等多くの事業を委託されています。福祉プラザ内に事務局が設置されており8名の職員が常駐しています。

理事長の仕事は、もっぱら行事等の挨拶が主なものです。実務は県職員OBの事務局長が行っています。先月も「よっちゃばれ広場」で行われた障害者芸術・文化祭のオープニングイベントで主催者として挨拶しました。例年、前理事長の竹内正直さんが季節の和歌を織り込んだ格調高い挨拶をされていました。これはもう知事も感心させられるほどのご挨拶でした。今年の私の挨拶はたどたどしいものでした。

知的障害以外の障害種別の人たちと交流するのは新鮮な発見があります。ご自身の障害による生きづらさを発信されているのは勉強になります。知的障害者の方が主張できないことを気づかせていただくことも多いです。先日は視覚障害者団体の70周年記念イベントに参加しました。最後の祝賀会までご一緒しました。盲人という言葉は使わなくなり視覚障害者を使うようになったようです。他国では盲という言葉は文化となっていて使用している国が多いそうです。また、びっくりしたことに近年は盲学校に行く人はほとんどいなくなったそうです。行く必要がないと話していました。挨拶した時に、私の風貌について頭髮はほぼないことを話したら、「大丈夫ですよ iPhone のカメラで山西さんを写せば、隣にスキンヘッドのおじさんが座っていると音声で教えてください」と隣の女性に言われました。最近のICTの発達之恩恵を多く受けているのは視覚障害者ではないでしょうか。メガネの発明はずいぶん昔の話なのですが、メガネがなかったら新聞も読めないし自動車の運転もできないです。

多くの障害者がICTを初めとしたテクノロジーの発達が障害の軽減に大きな力になる世の中であることを実感しました。今後はますます社会の障壁がテクノロジーにより取り除かれていくことになるでしょう。知的障害関係の情報だけでは知りえない世界があることを知りました。

障害のある人が障害の種別にかかわらず分かり合える社会を構築していくことは山梨県障害者福祉協会の使命であると思います。もちろん障害のある人もない人も「その人らしく生きること」が理想です。三富福祉会の理事長と障害者福祉協会の2足の草鞋をしばらくは履いていきます。

第5金曜特別枠 法人全体研修を行いました



一年に数回、第5週の金曜日に法人全体研修を行っています。今回は今年度第2回、第3回の研修が行われました。

仕事の楽しさは自分で作れるよ！研修

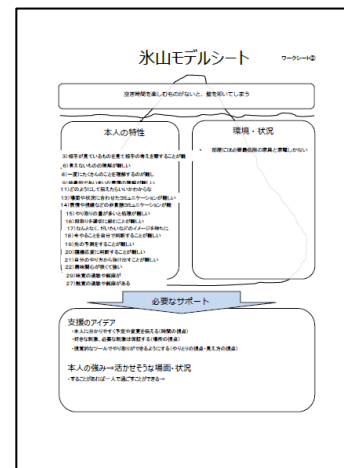


8月に2025年度第2回法人内研修「仕事の楽しさは自分で作れるよ！研修」を行ない、「ジョブクラフティング（自分の働き方に工夫を加えることにより、仕事のやりがいや満足度を高める取り組み）」について学びました。石垣悦子先生の講義を受け、先輩職員の経験談を聴き、グループワークを行い、理事長の想いを参加者皆で共有しました。石垣先生の講義から、職員一人ひとりが成長と前進に向けて、物事をポジティブに受け取り、ストレス対処力の向上や自己効力感の強化させる考え方を学びました。グループワークでは経験年数別に分かれ、仕事に対するビジョンや数年後の自分の役割について話し合いました。一緒に働く仲間の考えを知り、仕事をする上での考え方について新しい視点を得ることができました。【清水】

氷山モデルのアセスメントスキルをマスターしよう！

第3回研修は10月に行ないました。2024年に中核的人材研修を受講した法人の平井健太郎職員の講義を受け、利用者さんの困り感を通してグループでアセスメントの取り方について学びました。氷山モデルは「課題となっている行動＝ご本人が困っている事」を解決する為の大切なツールです。アセスメントを通して本人の特性を理解し、そして現在過ごされている環境とのミスマッチを検証していく作業が必要になります。その上で、どのような配慮や環境設定が大切なのかをグループで話し合い、必要な支援を具体的に検討しました。

最後に現在ハナモモファームで行っている支援会議の映像を全体で共有し、ご本人像をチームで考え理解する大切さを学ぶ事が出来ました。今回の研修で得た知識を明日からの実践に繋げていきたいと思いました。【清水】



2025

白
樺
祭

令和7年8月2日に第36回白樺祭を開催しました。例年同様白樺園利用者の皆さんに協力していただいております。お祭りの装飾を作成しました。

ステージでは塩山太鼓の皆さんの和太鼓の演奏、ハロハロキッズの利用者さんにダンスの披露をしていただきました。また、毎年来ていただいている原田喜照さん、岩下百合香さんのコンサートも行われました。利用者皆さんと一緒に踊ったり歌ったりとその場にいる全員が笑顔溢れる時間となりました。

当日は白樺園の職員だけでなく、法人内の他事業所の職員もお手伝いに来てくださり、法人全体で白樺祭の思い出を作ることができました。【依田】



ハロハロ二番館のグループトーク

～みんなで在宅支援のことを話しました～

青山 三富福祉会の居宅支援部門であるハロハロ二番館の紹介をしていきたいと思っています

平塚 「二番館は当事者さんが地域で自立した生活を送れるようにお手伝いをする場所です」

渡辺 「具体的には移動手段がない方の買い物や通院、自宅での入浴が困難な方のお手伝いなどをしています。一人暮らしをしている方の自宅から透析室への送迎、食事介助、入浴、余暇など、地域で生活をしている方のサポートをしています」

「当事者さんの在宅生活を支える中で印象深い場面はありますか？」

青山 当事者さんと一緒に買い物に行き、『好きな物を自分で選べて嬉しい』と言ってもらえて僕も嬉しかったです」

宮川 「ご家族から『本人の身体が大きくなってきたから、家族だけでは入浴が難しい。手伝ってもらえて助かる』と聞いて、ライフステージに沿った支援の必要性を感じます」

池上 「希望に添えられず歯がゆい思いしたこともありましたが、応えることができた時に『ありがとう』と言っていただけだった時などは大変励みになっています」

全員 「齊藤所長からも一言、居宅支援についての想いを聞かせてください」

青山 所長 「人が生活するというのは、ご飯を食べて、トイレに行って、お風呂に入るだけでいい生活しているという事にはならないと思います。そのほかに生活の中にある色々な彩りがあるって、自分なりに楽しんで、失敗して。そういうことがいっぱいあって生活しているっていう実感が出てくるんだと思います。二番館はそのお手伝いがしたいです」

青山 最後これからのハロハロ二番館の目標などを教えてください

全員 「みなさんが生まれ育った地域で暮らし続けていけるように、私たちはこれから寄り添い、支え続けていきたいと思います」



人材開拓 project

管理部長（採用担当）

佐野 毅

ふくしのしごとを志す若者は減ってしまったのか？

最近、新卒学生を対象とした合同就職説明会（特に、コロナ禍以降）に参加して感じることは、「ふくしのしごとを志す学生さんがめっきり減ってきたな」と感じます。聞くとところによると、県内の某有名な福祉系の私立大学では、福祉を志す学生数が減ってきてここ数年定員割れが生じており、3年後には福祉学部を閉鎖するらしいとのこと。何とも由々しき事態です。

確かに、就活中の学生さんたちと話をしていると「ふくしのしごとはしてみたいけれど、夜勤があるのはちょっと嫌です。土・日も交替で出勤するのちょっと・・・」といった答えが返ってきます。確かに「ワークライフバランス」を考えれば、学生さんたちの言うことは至極もっともなことです。しかし、例えば警察、消防、救急救命センターなど人々の「いのち」と「生活」を守る仕事は全て24時間365日の交替勤務です。誰かの助け（支援）を必要としている重度知的障害のある利用者さんの生活を支える仕事も同じです。

若者世代を中心に価値観の多様化が進み、職業選択の幅が広がってきたのかもしれませんが、我々現役世代がこの仕事の魅力とやりがいについて、情報発信を更に強めていく必要があると感じました。

一人でも多くの若者に、ふくしのしごとの魅力と尊さを届けるために、今日も「ふくしのしごとの伝道師」として情報を発信し続けます。

<職員募集中!!>（新卒、中途採用可）

生活支援スタッフ（資格不問）

調理スタッフ（資格不問）

☎ 0553-34-9200

三富福祉会・採用担当まで

☆表紙作品紹介☆

暑かった夏も過ぎ去り、季節は秋を通り越して冬を迎えるような寒さを感じるような季節となりました。秋は景色も食べ物も色々な物が色鮮やかに映る季節でもあります。今回の表紙は思いおもいの「秋」から連想される言葉を紡いで、それに合わせた絵を描いて添えています。今年の秋は一体どのような素敵な出会いが待っているのでしょうか。

秋冬らしい楽しみに心躍らせながら、今日も新しい作品を共に創り上げていきたいと思います。【丸山】



三富福祉会通信 Vol. 25!!

今号では生活介護「ワーキングベースプロペラ」と地域活動支援センター「オアシスやまなし結」の活動の様子、そしてそれぞれの地域との関わりについてお伝えさせていただきました。利用されている皆さんが活動や仲間との時間を楽しみに通える場を目指し、居場所となるようこれからも努めていきたいです。

法人全体研修では定期的に支援者のニーズに沿った研修を企画し、開催しています。支援者としての専門性を高め、ご本人らしい生活の実現に向けてチームで支援が行えるよう日々学んでいきたいです。【中込】

広報部委員：吾妻、青山、穂山、清水、中込、依田